

ピロリ菌検査

慢性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍はピロリ菌が関係しているとされています。
近年では胃がんの発症にも大きく関係していることがわかってきました。
(ピロリ菌だけがこれらの病気の原因ではありません。)

ピロリ菌ってどんな菌？

約3μmのらせん菌で鞭毛を回転させ動き回り、胃の粘膜細胞の間に入り込んで潜伏しています。
そして胃を守る粘液層がピロリ菌の住家になります。
ピロリ菌は細胞に対する毒素を出すだけでなく、ウレアーゼという酵素を持っていて、その酵素が尿素を分解してアンモニアを作ります。そのアンモニアが直接胃壁を傷める原因ともなります。
なぜ、強酸性の胃の中で生きることができるかというと、アンモニアで菌の周りの酸性を弱め、自分の周りを中性化しているからです。

どうやって感染するの？

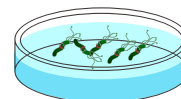
経口感染が主な経路と考えられています。ピロリ菌は、ほとんどが5歳以下の幼児期に感染するとされています。
幼児期の胃の中は酸性が弱く、ピロリ菌が生きのびやすいためです。
上下水道が整備されていない国や地域で感染率が高く、先進国では日本だけが際立って高い感染率を示しています。
その感染率は50歳以上で70～80%ととても高く、これは子供の時に井戸水を飲用していたためと考えられています。
最近では母から子へなどの家庭内感染が疑われていますので、ピロリ菌に感染している大人から小さい子どもへの食べ物の口移しなどには注意が必要です。

検査の方法は？

内視鏡で胃の組織の一部を取って、次のいずれかの方法で検査します。

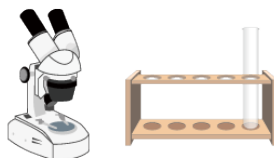
迅速ウレアーゼ法

ピロリ菌がもつウレアーゼのはたらきで作られるアンモニア(NH₃)の有無を調べます。

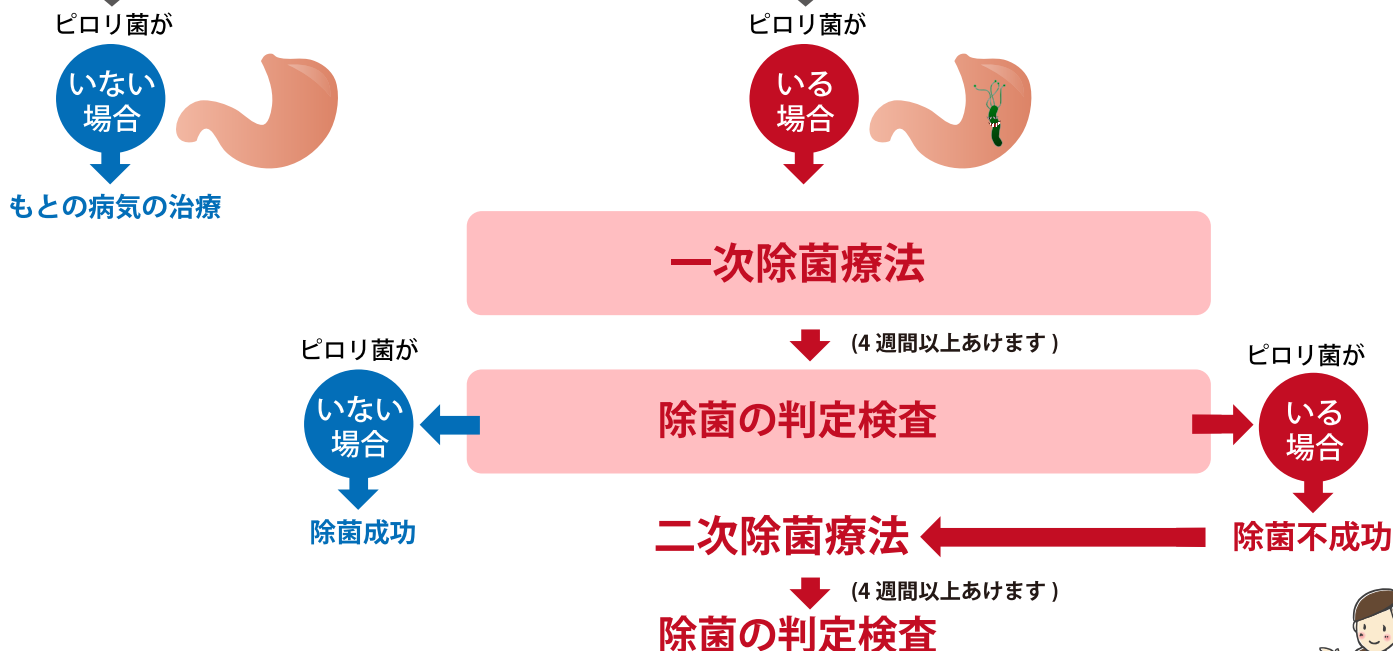


組織鏡検法

顕微鏡でピロリ菌がいるかどうかを調べます。



ピロリ菌に感染しているかどうかを調べます



すべての治療が終了した後、4週間以上経過してから行うピロリ菌の検査
(除菌できたかどうかの検査)は必ず受けてください。

